

# 「デジタル紙芝居」朗読レッスン用台本

## ぎつね ごん 狐

おうちで、「デジタル紙芝居 ぎつね ごん 狐」の限定公開動画に合わせて、この台本を読んでみてください。  
この台本に書かれているのは、「ごん狐」の後半部分です。動画が始まって「14分28秒」たった頃から最後まで書かれています。朗読レッスンでは「14分28秒頃～最後」をみんなで読む予定です。

……台本の読み方……

↓時間のめやす(14分28秒) ↓読み始めるきっかけ(虫の声が聞こえたら読み始めよう！)  
(例1) 1428 (虫の声が聞こえたら)

↓読むところ・ト書き(元気に声をだそう！)  
月のいい晩でした。

↓時間のめやす(15分17秒) ↓読み始めるきっかけ(セリフは口元に合わせて読もう！)  
(例2) 1517 (口元に合わせて)

↓読むところ・「兵十」のセリフ ↓読むところ・ト書き  
(左の男:兵十)「**そうそう、なあ加助**」と、兵十がいました。

↓読むところ・「加助」のセリフ  
(右の男:加助)「**ああん?**」

↓読むところ・「兵十」のセリフ  
(左)「**おれあ、このごろ、とてもふしぎなことがあるんだ**」

↓読むところ・「加助」のセリフ  
(右)「**何が?**」

では…次のページから、台本がはじまります。さあ、やってみよう！

1428 (虫の音が聞こえたら)

月のいい晩でした。

1433 (お城が映ったら)

ごんは、ぶらぶらあそびに出かけました。中山さまのお城の下をとお通しってすこしくと、ほそ細い道みちの向うから、だれかく来るようです。話声はなしごえが聞きえます。(虫むしのこえ声を少し聞きいて)チンチロリン、チンチロリンと松虫まつむしが鳴ないています。ごんは、道みちの片かたがわにかくれて、じっとしていました。

1503 (二人の影が動き出したら)

話声はなしごえはだんだんちか近ちかくなりました。

1510 (二人の顔が見えたら)

それは、兵ひょうじゅう十かすけと加助ひやくしやうというお百 姓ひやくしやうでした。

1517 (口元に合わせて)

(左の男:兵十)「**そうそう、なあ加助**」と、兵十ひょうじゅうがいました。

(右の男:加助)「ああん？」

(左)「**おれあ、このごろ、とてもふしぎなことがあるんだ**」

(右)「**何が?**」

(左)「**おっ母かあが死しんでからは、だれだか知しらんが、おれに栗くりやまつたけなんかを、まいいにちまいにちくれるんだよ**」

(右)「ふうん、だれが？」

(左)「**それがわからんのだよ。おれの知しらんうちに、おいていくんだ**」

1555 (二人の影が動き出したら)

ごんは、ふたりのあとをつけていきました。

1600 (二人の顔が映ったら口元に合わせて)

(右)「ほんとかい？」

(左)「**ほんとだとも。うそおもと思うなら、あした見こに来いよ。その栗くりを見せてやるよ**」

(右)「へえ、へんなこともあるもんだなア」

1617 (画全体が動き始めたら)

それなり、二人ふたりはだまって歩あるいていきました。

1624 (二人の影が映ったら)

加助<sup>かすけ</sup>がひょいと、後<sup>うしろ</sup>を見<sup>み</sup>ました。

1627 (ごんに寄った画に替わったら)

ごんはびくっとして、小<sup>ちい</sup>さくなってたちどまりました。

1633 (二人の影が映ったら)

加助<sup>かすけ</sup>は、ごんには気<sup>き</sup>がつかないで、そのままさっさとあるきました。

1639 (家が映ったら)

吉兵衛<sup>きちべえ</sup>というお百<sup>ひゃく</sup>姓<sup>しょう</sup>の家<sup>いえ</sup>まで来ると、二人はそこへは行っていきました。(少し木魚<sup>もくぎよ</sup>の音を聴いて)ポンポンポンと木魚<sup>もくぎよ</sup>の音<sup>おと</sup>がしています。

1655 (障子が映ったら)

窓<sup>まど</sup>の障子<sup>しょうじ</sup>にあかりがさして、大<sup>おお</sup>きな坊主頭<sup>ぼうずあたま</sup>がうつって動<sup>うご</sup>いていました。ごんは、「おねんぶつがあるんだな」と思<sup>おも</sup>いながら井戸<sup>いど</sup>のそばにしゃがんでいました。

1717 (家が映ったら)

しばらくすると、また三<sup>さん</sup>人<sup>にん</sup>ほど、人<sup>ひと</sup>がづれだつて吉兵衛<sup>きちべえ</sup>の家<sup>いえ</sup>へは行っていきました。お経<sup>きょう</sup>をよ<sup>よ</sup>む声<sup>こえ</sup>がきこえて来<sup>き</sup>ました。

1731 (丸<sup>まる</sup>くなったごんが映ったら)

ごんは、おねんぶつがすむまで、井戸<sup>いど</sup>のそばにしゃがんでいました。

1738 (二人が映ったら)

兵十<sup>ひょうじゅう</sup>と加助<sup>かすけ</sup>は、また一<sup>いっ</sup>しよにかえっていきます。

1746 (家が映ったら)

ごんは、二人の<sup>はなし</sup>話<sup>はなし</sup>をきこうと思<sup>おも</sup>って、ついていきました。兵十<sup>ひょうじゅう</sup>の影法師<sup>かげぼうし</sup>をふみふみいきました。

1756 (二人が映ったら)

お城しろの前まえまで来たとき、加助かすけが言いい出いしました。

1801 (二人がおおうつし大写しになったら 口の動きに合わせて)

(右)「さっきはなしの話は、きっと、そりゃあ、神かみさまのしわざだぞ」

(左)「えっ?」と、兵十ひょうじゅうはびっくりして、加助かすけの顔かおを見ました。

(右)「おれは、あれからずっと考かんがえていたが、どうも、そりゃ、人間にんげんじゃない、神かみさまだ、神かみさまが、お前まえがたっただ一人ひとりになったのをあわれに思おもわっしゃって、いろんなものをめぐんで下くださるんだよ」

(左)「**そうかなあ**」

(右)「そうだとも。だから、まいにち神かみさまにお礼れいを言いうがいいよ」

(左)「**うん**」

1848 (ごんが映ったら)

ごんは、へえ、こいつはつまらないなと思いました。おれが、栗くりや松まつたけを持もってやってやるのに、そのおれにはお礼れいをいわないで、神かみさまにお礼れいをいうんじゃア、おれは、引ひき合あわないなあ。

1910 (兵十の物置が映ったら)

そのあくる日もごんは、栗をもって、兵十の家へ出かけました。兵十は物置で縄をなっていました。それでごんは家の裏口から、こっそり中へはいりました。

1930 (兵十が映ったら)

そのとき兵十は、ふと顔をあげました。

1935 (画が少し広めになったら)

と狐が家の中へはいったではありませんか。

1941 (兵十が映ったら)

こないだうなぎをぬすみやがったあのごん狐めが、またいたずらをしに来たな。「よし。」

1954 (鉄砲が映ったら)

兵十は立ちあがって、納屋にかけてある火縄銃をとって、火薬をつめました。

2003 (兵十とごんが映ったら)

そして足音をしのばせてちかよって、今戸口を出ようとするごんを、

2012 (画が筒口に替わり、火をふくのに合わせて)

…ドンと、…うちました。

2019 (倒れたごんが映ったら)

ごんは、ぱたりとたおれました。

2024 (画が少し広くなったら)

兵十はかけよって来ました。家の中を見ると、土間に栗が、かためておいてあるのが目につきました。

2034 (兵十が映ったら)

「おや」と兵十は、びっくりしてごんに目を落しました。

2045 (ごんに近づいた画になったら)

「ごん、お前だったのか。いつも栗をくれたのは」ごんは、ぐったりと目をつぶったまま、うなずきました。

2104 (火縄銃が落ちる画になったら)

兵十は火縄銃をぱたりと、とり落しました。

2112 (筒口が映ったら)

青い煙が、まだ筒口から細く出ていました。

おわり